

河北潟干拓地酪農団地における牧草の栽培作業平準化を推進

県央農林総合事務所

河北潟干拓地内には県内の牛乳の約54%を生産している県内最大の酪農団地があります。飼料の自給率を高めるため、乳牛の餌となる牧草の栽培が盛んに行われていますが、年に数回栽培することから特に収穫から播種にかけての作業が短期間に集中し、労働負担が過重となることや作業が遅れることにより品質低下などを招いていました。

河北潟干拓地内で一般的に栽培されている牧草（イタリアンライグラス）の品種より早い時期に収穫できる品種を一部導入することで、作業の平準化が可能であると当事務所からも提案していましたが、これまでは早い時期に収穫できる品種は収穫量や牛の嗜好性に問題があることから酪農家に敬遠されていました。

そこで、当事務所では栽培面積が大きい1戸の酪農家をモデルとして、嗜好性が改善された新品種の客観的データを示すことで抵抗なく試験的な導入に取り組んでももらいました。

その結果、収穫量は一般的に栽培されている品種と比較してほぼ同等で、作業が分散されたことで労働負担が低減し適期作業も可能になりました。また、牧草で作ったサイレージを給餌した牛の嗜好性も良く、モデル酪農家からも高い評価を得られました。

この取り組みを他の酪農家へ普及を図った結果、新品種の導入が進み、作付面積は40.7ha（令和3年産）と前年の約3倍に増加しました。導入した酪農家からは「収穫量は今までとほぼ同等なのに作業ピークの労働負担が軽減して、余裕をもって作業ができるようになった」などの評価を受けています

今後は更に各酪農家の作業方法や労働力に合わせた最適な牧草の組み合わせを提案するなど、牧草の栽培作業を平準化する取組を普及推進していきたいと考えています。



牧草（イタリアンライグラス）の刈取作業



刈取った牧草のラップサイレージ化

問い合わせ先：県央農林総合事務所津幡農林事務所
(076-289-4158)